

令和7年度建設経済常任委員会行政視察研修報告書

- 1 目的 本市のまちづくりや産業振興に資するため
- 2 実施日 令和7年5月14日（水）～16日（金）
- 3 視察地 宮城県石巻市
秋田県大仙市
宮城県企業局
- 4 視察内容 石巻市「道の駅上品の郷」
大仙市「大曲駅前開発」
宮城県「宮城県上工下水一体官民連携運営事業
(みやぎ型管理運営方式)」
- 5 参加者 委員長 若見 孝信
副委員長 渋井 康男
委員 加藤 誠一
委員 吉田 雄次
委員 福田 克之
委員 矢澤 功
執行部職員2名
事務局職員1名

宮城県石巻市

視察日 令和7年5月14日（水）

1 石巻市の概要

平成17年4月1日に石巻市・河北町・雄勝町・河南町・桃生町・北上町・牡鹿町の1市6町が合併し、旧北上川の河口に位置する県北東部地域の中心都市である。漁業・水産養殖業が主要産業で、サバ、カツオ、イワシなどを中心に漁獲量は全国屈指であり、「金華サバ」はブランドとして確立されている。また、中心市街地ではマンガを活かした街づくりが進められており、石ノ森萬画館やマンガロードのモニュメントなどがある。

人口 131,477人 面積 554.55km²

議員定数 28人 会派 7会派

2 視察内容

道の駅上品の郷は、じゃらん道の駅の満足度ランキング「全国道の駅 グランプリ 2022」で全国第2位を獲得した。その他、メディアで多数紹介されたりと人気の道の駅である。

宮城県の道の駅では唯一の温泉保養施設があり、非日常の癒しと安らぎの空間と日常の食に関するこだわりの農産物の提供に取り組んでいる。

また、地域の賑わいを創出する道の駅として、地元歌手のトークショーや夏祭りなどのイベントのほか、様々な市場を開催している。

3 所感

視察先の道の駅上品の郷は、本市同様に温泉一体の施設である。以前、石巻市議会ではリニューアル直後の道の駅きつれがわを視察したとのこと。

平成12年に旧河北町の町職員による「道の駅検討部会」の設置。平成17年4月の市町村合併前の旧河北町の時代に道の駅「上品の郷」を開所し、高速道路ICの設置に合わせた「賑わいの場」の創出という目的で完成した。

東日本大震災時は防災拠点として役割を果たし、津波の被害からは逃れたが、停電や断水が発生。ポータブル発電装置を使い、震災当日も営業を継続。

その後、農家から仕入れた農産品などの販売や温泉施設「ふたごの湯」も再開し、駅長自ら灯油を調達し、被災者や復旧作業の工事関係者、ボランティアが毎日利用した。

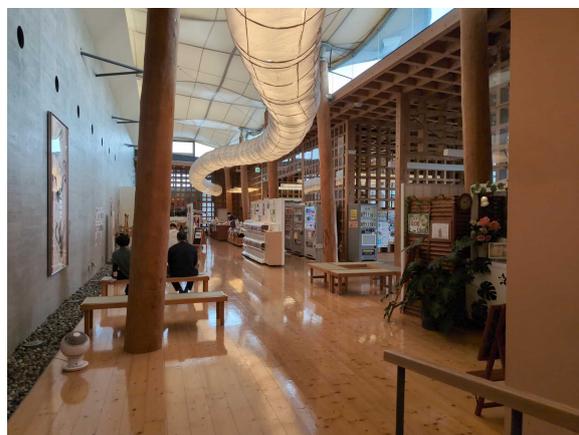
施設の初期の目的である賑わいの場の創出を実現。復興のシンボルとなった。

また、平成29年度には損失を出したが、経営改善に取り組み、従業員のコスト意識を変え、現在、完成から20年以上を迎えても従業員が一丸となって業務を積み重ね「じゃらん」全国道の駅グランプリで「満足度の高い道の駅」に選出され利用者の満足度向上につながっている。

今後は、本市の道の駅きつれがわの運営全般に活かしたい。



農産物直売所 ひたかみ



温泉保養施設 ふたごの湯



秋田県大仙市

視察日 令和7年5月15日（木）

1 大仙市の概要

大仙市は、東の奥羽山脈と西の出羽丘陵に囲まれた秋田県のほぼ中央に位置し、あきたこまちの主要産地でコメの収穫量は新潟県に次ぐ全国第2位、蔵元の数は県内市町村で第1位である。また、毎年8月最終土曜日に開催される日本最高峰といわれる全国花火競技大会「大曲の花火」で知られている。

人口 73,127人 面積 866.79km²
議員定数 24人 会派 6会派

2 視察内容

大仙市では、都市機能集約による人口減少社会適応したまちづくりに取り組んでいる。JR大曲駅前に地域中核病院、子育て支援施設等の都市機能をに集約し、新たな人の流れを創出している。

また、商店街の人々が新たにまちづくり会社を立ち上げ、中心市街地の古い内蔵を商店と交流施設を兼ねるまちなか拠点施設「毎日大曲」としてリノベーションした。その他にも、女性をターゲットに商品開発・PR等を多様な事業者、地元メディアと連携して行っている。

3 所感

視察先の大仙市大曲は、本市同様、中心市街地の人口減少など共通の悩みを抱えている。大曲の花火通り商店街では人口減少や車社会の影響で来街者、店舗の減少が問題となっていた。

中心市街地活性化基本計画による駅前に地域中核病院や認定こども園が集約したことを契機に、商店街の古い内蔵を特産品の販売とまちなか拠点交流施設

「毎日大曲」にリノベーションし新たな人の流れを創出した。

特に、地元商店主が地元デザイナーと協力し、季節野菜のピクルスなど地元の素材や伝統を取り入れた魅力ある独自ブランド商品を開発。

自由な発想で商店街マップの作成やまちゼミの開催やご当地グルメのPRなど、秋田で歴史ある酒蔵と毎日大曲限定の日本酒を製作した。

それらを地元新聞社と協力し取組内容や目的などを市民に伝えた。

また、地方における安定した雇用も創出し、地方への新しい人の流れをつくるため、若い世代の結婚・出産・子育てなど時代に合った地域づくりを実現した。

なお、活用した支援は下記のとおり。

- 中心市街地活性化基本計画の認定（内閣府）
- 社会資本整備総合交付金（国土交通省）
- 地域商業自立促進事業（経済産業省）

今後は、蒲須坂駅周辺開発や氏家駅東口整備事業など都市機能の集約を含めた補助金支援金の獲得など本市の政策に活かしたい。



大曲駅周辺ガイドマップ



JA 大曲厚生医療センター（地域中核病院）



宮城県企業局

視察日 令和7年5月16日（金）

1 宮城県の概要

宮城県は、自然や文化、食材など豊富な地域資源に恵まれ、空港や港湾をはじめとする交通網も整備され、大型企業の新工場が立地するなど、東北の中心地となっている。

人口 2,232,444人 面積 7,282 km²

議員定数 59人 会派 7会派

2 視察内容

全国的に水道事業においては、人口減少による収入減、技術人材確保、老朽化による更新費用の増大等、厳しい経営環境となっている。

宮城県企業局では、それらの課題について、効率化を図るだけでは将来の料金上昇は避けられないと考え、持続可能な水道経営を確立するため、「官民連携」により民の力を最大限活用した「宮城県上工下水一体官民連携運営事業（みやぎ型管理運営方式）」を令和4年4月から始めた。

これは先導的な優良事例であり、第1回 PPP/FPI 事業優良事例表彰（大臣賞）などさまざまな賞を受賞している。

3 所感

視察先の宮城県企業局「みやぎ型管理運営方式」は、上下水道や工業用水の事業について、所有権を県に残したまま、民間業者が20年間運営するものである。

令和4年4月に、給水収益が減少する一方で送水管等の更新需要が増大し、経営環境においても持続可能な水道経営を確立するため、官民連携により「宮城県上工下水一体官民連携運営事業」（みやぎ型管理運営方式）を始めた。

「上水、工業用水、下水」3つの水道事業を民間委託し、効率的な運営を図っている。この方式は、公共サービスの維持と経済的な持続性を両立させるために採用された。

民間委託することで、専門的な知識や経験を持つ企業が担当し、効率的な運営が可能。水道事業は公共サービスであり、信頼性を保ち民間企業との連携により、経営の持続性を高めることができる。

また、最新の技術や設備を導入し、サービスの向上や効率を図ることができる。公共機関だけでなく、民間企業が運営に参加することで、リスクを分散し、災害時などにも迅速な対応が可能である。

運営には専門的な知識や技術が必要だが、民間企業の人材を活用することで適切な管理と運営が行える。

「みやぎ型管理運営方式」は、宮城県企業局の試算で20年間で約337億円の

事業費削減を見込んでいる。

最近では埼玉県八潮市の事故もあり、安全で安心な水の供給、安定的な汚水処理は最も大切な事業でもある。

規模は全く違うが、先進モデルとして本市の上下水道事業に活かしたい。



出典：宮城県ホームページ